

# 一流の源流

[古里が生んだメダリストたち]



自分の限界を見切るな、あきらめなければ夢は必ずかなう。  
日の丸を背負い、世界で戦う選手の原点は古里にあった。  
トップアスリートはどうやって生まれるのか。メダリストの2人に聞いた。

## 藤原麻起子さん × 藤野遥香さん



計り知れない練習量  
自分の力を信じて  
勝利を自らつかみ取る

**Fujino Haruka**

藤野遥香

PROFILE

1984年千厩町清田生まれ。2000年千厩中卒、星野高(埼玉)入学  
03年星野高卒、トヨタ自動車に入社。背番号は「19」。外野手、右投げ右打ち  
11年日本リーグの成績は打率.323、本塁打1、打点13  
162号、愛知県在住、28歳

分でプレーをするよりも大変だからこそ、選手が喜ぶ瞬間は、自分のこと以上にうれしいです。目標は、全国に通用する選手を育て、県を、そして全国大会を制覇することです。ソフトボールを通して培ったものを社会に出で成長していく土台にしてみたいと思います。藤野 高校から県外に出ました

が、私を育ててくれた岩手に恩返ししたいです。今年は、麻起子さんと一緒に岩手代表として国体に出場します。全国で1勝したいです。あとは、所属チームの3連覇です。千厩町清田に生まれて、千厩中を卒業して、世界の舞台に立てるといふことを一生懸命ボールを追いかける子供たちの励みにもなりたいです。

団、その時、所属したメンバーのチームが日本一だと信じてやってきました。思い込みが自信に変わることもあると思います。試合には勝敗があり、思うようにできないこともたくさんあります。失敗してよくよしては次のチャンスで打てなくなりません。大事なことは、あまり落ち込まず、見返してやろうという強い気持ちです。

私のモットーは、「つかむ」。与えられたチャンスを、勝利を自らつかみ取ります。藤原さんは、現役を引退し、教諭として新しいスタートを切りました。藤野さんは、世界制覇を成し遂げました。2人のこれらの目標を教えてください。藤原 4月から千厩高に教諭として勤務しています。女子ソフトボール部を指導しています。自



応援がパワーに  
信念を曲げずに  
攻めのソフトボールを

**Fujiwara Makiko**

藤原麻起子

PROFILE

1983年千厩町千厩生まれ。99年千厩中卒、星野高(埼玉)入学  
02年星野高卒、東北福祉大(宮城)入学。06年東北福祉大卒、(株)日立製作所に入社  
12年(株)日立製作所を退社、千厩高に着任し、現代社会を教える。  
165号、千厩町千厩在住、29歳

ソフトボールを始めるきっかけは何ですか？意識していた選手はいますか？  
藤原 小4でソフトボール部に入るまでは、6つ上の姉の試合の応援に行っていました。負けず嫌いで、幼いころからライバルは姉。常に姉を意識して、超えたくて、毎日練習に励みました。  
藤野 2つ上の姉とキャッチボールをしたり、真似してバットを振ったりしたのが影響して、姉を超えてやろうと、小3の冬から本格的に始めました。  
1つ上の麻起子さんは、いつも一歩先に全国優勝したり、世界大会に行ったり、実績を残してきました。私は、それを追いかける立場。先輩より絶対上に行く。そう思っ取り組んでいましたね。  
トップアスリートとしてプレーするために大切なことは何ですか？

れます。文武両道を基本に良好な人間関係を築き、普段の生活を大切にしてください。  
藤野 カラダの基礎づくりが大事です。中学時代の練習量はすごかったです。あごを着けて腕立て伏せを倒れるまでしたり、動きにキレを出すために反復横跳びをしたり、馬跳びをしたり。練習場所が制限される冬でも体力づくりは欠かしませんでした。家に帰っても毎日、腕立て伏せ、腹筋、スクワット、素振りを繰り返していました。チームのみんながやっていたから私も自然にやることができました。チームの意識はとて高かったです。  
大舞台で自分の力を最大限発揮するために必要なことは何ですか？  
藤原 応援が多いほどパワーになります。周りに感謝してプレーするようになってからは、応援をパワーに代えられるようになりました。離れていても思いは届きます。地元に戻って歓迎されたときは、多くの人たちが応援してくれていることを実感できました。  
試合に集中して、緊張し過ぎるのも、リラックスし過ぎるのもだめ。適度な緊張感を持ちながら、周囲の応援を感じられる余裕があるといいですね。  
藤野 信じること。小中高、実業

古里の応援が強くさせてくれた  
絶対、超えてやる。背中を追わせてくれる先輩がいた